

# “健康で住みよい農村生活をめざして”

県農村生活開発推進大会が二月三日、熊本市産業文化会館で開かれ、会員ら七百五十人が参加した。今回は厳しい農業経営を反映し、自家生産物を生かした食生活など日常生活を見直す体験発表が目立ち、また、会員の展示発表でも古着の再利用などのほか、自家生産物を使った健康食や、米の消費拡大を図ろうと米みそ、きびもちなど米を使った料理が多数紹介された。

- 表彰を受けた優秀生活改善実行グループ
- 若葉会（熊本市御領町）
- 水晶会（下益城郡豊野村）
- ひまわり会（玉名郡南関町）
- 友の会（八代郡坂本村）



じさせないため、非行を誘発しにくい環境や条件の整備を図るための「防犯的視点に立った対策」を強化しております。後者の例を挙げてみますと

万引防止対策については、デパートやスーパーなど関係業界に対して、売場の構造、商品の陳列、販売方法等の改善や従業員の防犯意識の高揚など、万引を生み出す条件を無くして、未然に防止する施策をとっていただくようお願いしています。

また、乗物盗の防止対策については、自転車やオートバイ等の販売業者に対して自転車の防犯登録及び住所氏名などの記名さらには、性能のよいカギ（施錠）の取付け等を積極的にしてもらおうと要請しています。

○「遊び型非行」は初期の手当が大切。  
少年の万引や乗物盗については、一過性の遊び型として軽視されがちですが、さきに触れましたように、だんだん集団化し、くり返し行うことによって本格的な非行に深化していく危険性が極めて高いのです。

そういった観点から、これらの少年を早く発見し、初期段階において厳しい指導措置を講ずることによって、本格的な非行へ陥っていくことをくい止めようというところで、警察でも早期発見、早期補導に力を入れているわけです。

このように、遊び型非行は初期の担当が大切であることをみんなが認識して適切に対処すれば、再非行はもとより、新たな少年非行の発生の防止も可能ではないかと考えられます。

○非行防止の基盤は家庭。  
生徒・学生の間遊び型非行が増え続けている大きな原因として、「自分だけではいから」「友だちに誘われたから」「ちょっと乗っただけだから」など少年たちが自己の行為を正当化して、罪に対する意識がないこと、さらに、少年たち自身の耐性の弱さなどその資質の問題があるといわれていますが、万引など遊び型非行をおかした少年たちを補導する過程で特に痛感されますことはまさにこの指摘のとおりで人間形成が十分

になされていないことです。

ご承知のとおり、人間形成において最も基本的な役割を果たすのが、近年その家庭における教育的機能の弱まりが指摘されております。

すなわち、子供が悪いことをしたり、怠けたとき、わがことのように厳しく叱り戒め、苦しみや悩みには共感して温かく励まし、いつくしむ親が少なくなつたといわれており、逆に子供を理解すること、甘やかしや放任とを混同して、子供にせがまれるままに物を買ひ与え、一緒に遊んでやるのが愛情であると錯覚している家庭、さらにはわが子の能力も考えないで厳しく勉強を求める期待過剰型の家庭が多くなっているようです。

子供に対する「しつけ教育」には、いろいろな面からの対応が必要ですが、最も大切なことは、善と悪とのケジメをしっかり身につけさせる「規範意識」とガマンする力「耐性」を養うことが、しつけの基本ではないかと思えます。

## ご存じですか 住民相談コーナー

なやみごとは  
こどもさんのことで困りごと

(0963) 82-6666

警察本部の住民相談コーナーへ、  
又はお近くの警察署住民相談コーナーへどうぞ。

(県警防犯少年課)

この二つをしっかりと身につけさせることにより非行は防げると思われまます。

次代の担い手である少年たちが、健やかに育つことは私たち県民すべての願いであり、また義務でもあります。

県民の皆さんが、いま一度少年非行の現状を見極めて、非行防止と健全育成のために真剣に取組んでいただきますようお願い申し上げます。